常盤の翠

志・寛・錬

発 行
令和4年11月21日
鹿児島市立伊敷中学校

「一期一会の瞬間」に生きる

校長　河瀬　雅之

「日食」「月食」という言葉は耳にしても「惑星食」という言葉は初めて聞いたという人も多かったのではないでしょうか。

星を観察することを趣味にしている者にとっては、星が月に隠される星食はチェックすべき天体現象の一つです。食とはなるものの、星食の中でも惑星が月食中にあるときは珍しいことです。そのため、今回は皆既月食と惑星食が同時に起こるということで年前から話題になっていました。

七番目の惑星、天王星でした。第６等級の明るさしかなく暗い星の中から天王星を見つけ出すのは至難の業です。私もこれまで天王星を直接観察する機会はありませんでしたが今回は皆既中の月と絶好の目印付きで、双眼鏡を月に向けるとすぐにその姿を捉えることができました。午後６時過ぎに観測を始め、欠け行く月に少しずつ近づいていく天王星（実は月の方が近づいていく）をカメラで追いかけました。

今回食となるのは、太陽系第

話題にもなりましたが、星食とは全国で見られるものではなく、一生のうちに一度の貴重な機会を、ただ良い天気に恵まれますようにと祈りながら楽しみにしていました。

天文現象は、いつ何が起こるかが計算上予言され、その通りになります。それが何百年に一度の現象ともなれば、天気予報に一喜一憂しながら、楽しみに待つことになるのです。しかし、終わってしまえば二度と同じ現象はそれきり限り、もう二度と同じ現象はそれきり限り、もう二度と同じ現象はそれきり限り、もう